

会 議 録

審議会等の名称	平成29年第9回教育委員会（定例会）
開催日時	平成29年7月25日（火）14：00～15：20
開催場所	山口市役所別館1階第2会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	宮原委員長、佐々木委員、横山委員、竹内委員、佐藤委員、山本委員、岩城委員
欠席者	
事務局	中谷教育部長、磯部教育部次長、原田教育総務課長、伊藤教育施設管理課長、江山学校教育課長、井上社会教育課長、山田中央図書館長、磯部文化財保護課長、石川教育総務課主幹、岡本教育総務課副主幹
付議案件	<p>議 案</p> <p>（1）山口市指定文化財の諮問について</p> <p>報告事項</p> <p>（1）第1回山口市教育振興基本計画策定委員会意見について</p> <p>（2）社会教育委員会議の協議内容について</p> <p>協議事項</p> <p>（1）平成28年度教育委員会の事務の点検・評価について</p>
	<p>宮原委員長 ただいまから、平成29年第9回教育委員会（定例会）を開会いたします。</p> <p> 本日の会議録の署名は、佐々木委員さんと竹内委員さんをお願いいたします。</p> <p> 本日は、議案1件、報告事項2件、協議事項1件となっております。</p> <p> 公開・非公開を確認する議案はございませんので、順番どおり始めたいと思います。</p> <p> それでは、議案第1号の山口市指定文化財の指定について、事務局から説明をお願いします。磯部文化財保護課長。</p>
	<p>磯部文化財 それでは、議案第1号山口市指定文化財の指定について、御説明申し上げます。</p> <p>保護課長 資料は①の1ページ並びに当日配布資料のAでございます。</p> <p> 山口市文化財保護条例では、教育委員会が山口市内にある文化財で特に重要なものを文化財審議会の意見を聞いて指定することになっており、6月28日の教育委員会定例会におきまして、築山神社本殿並びに朝倉八幡宮のイヌマキの2点の山口市文化財審議会への諮問について御審議をいただいたところでございます。</p> <p> 去る7月11日に開催いたしました文化財審議会におきまして、指定</p>

	<p>文化財への指定について審議されました結果、本日配布資料Aの1枚目にごじますように、1 築山神社本殿、2 朝倉八幡宮のイヌマキ、それぞれとも文化財に指定するにふさわしい旨の答申がございました。</p> <p>なお、2 朝倉八幡宮のイヌマキにつきまして、資料Aの2枚目にごじますように、指定範囲については、こちらのほうに諮問をしたときには半径8メートルの範囲としておりましたが、審議会の審議の過程で、なるべく指定範囲が広いほうがよいという御意見がございましたので、審議委員、所有者、隣接者等とで再調整を行いました結果、資料Aの2枚目にごじますように、半径12メートルの円形ということで決定をいたしましたところがございます。</p> <p>以上の答申を踏まえ、1 築山神社本殿及び2 朝倉八幡宮のイヌマキにつきまして、山口市指定文化財に指定することについて、本定例会にお諮りいたすものでございます。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
<p>宮原委員長</p>	<p>議案第1号について、御質問や御意見はございませんか。</p> <p>ないようでしたら、議案第1号について承認される方は挙手をお願いいたします。</p> <p>(全員挙手)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、原案のとおり承認いたします。</p> <p>続きまして、報告事項に移ります。</p> <p>報告第1号の第1回山口市教育振興基本計画策定委員会意見について、事務局から説明をお願いします。原田教育総務課長。</p>
<p>原田教育総務課長</p>	<p>それでは、報告第1号第1回山口市教育振興基本計画策定委員会意見についての御説明を申し上げます。</p> <p>議案資料①の2ページでございます。また、当日お配りしております資料Bを御覧いただきたいと思っております。</p> <p>策定委員会の開催が1週間前で行われましたので、資料の事前配布ができませんでした。申しわけございませんでした。</p> <p>それでは説明をいたします。</p> <p>御案内のとおり、教育振興基本計画につきましては、現行計画が今年度までの計画期間となっておりますことから、次期計画の策定を今年度中に策定すべく、このたび策定委員会を設置いたしまして、第1回目の策定委員会を7月18日、すみません、資料は19日となっております。申しわけございません。修正をお願いいたします。18日火曜日、13名の委員全員の御出席により開催をいたしましたところがございます。</p> <p>なお、委員の名簿につきましては、資料の一番裏のページに記載して</p>

おります公募委員2名を含む13名の方で構成をいたしておりまして、山口大学の村上教授に委員長、学芸大学の川野准教授に副委員長をお願いいたしましたところでございます。

議題につきましては、記載のとおり、3つの議題をそれぞれ事務局から説明をいたし、それに対しまして、委員の皆様からさまざまな御意見をいただいたところでございます。

御意見については、内容を6つに分類いたしまして、これから紹介してまいりたいと思います。

まず、(1)計画の対象範囲に関するものでございますけれども、医学的には脳は3歳までに成人の重さの8割に達するというところで、就学前の3歳未満についても計画の範囲とする必要があるということございまして、現在であれば、就学前の幼稚園、3歳以降の計画となっているものを、それ以前についても計画期間に加えるべきではないかという御意見でございます。

また、2番目につきましては、お母様方については、働いていらっしゃる方が多いということで、ひとりっ子もふえて、今から人口をふやすという意味でも結婚や命の大切さを教えることも教育ではないかということで、そういった対象についても、福祉だけではなく教育の部分からも範囲に入れるべきではないかという御意見でございます。

次に、現在実施中の事業に関するものといたしまして、主には議題の(2)におけます現在の計画の進捗状況に対する意見をこちらに記載してございます。

①につきましては、名田島、嘉川で行っております運動場の芝生化につきましては、地元の負担が大きいので見直すべきではないかという御意見、そして、2番目、3番目につきましては、読書ノートに関する御意見で、強制的に書かせるようなものはいかなるものかという御意見や全員にやらせる必要があるのかどうかという御意見もございました。

④につきましては、子どもたちが生まれ育った故郷について、きちんと勉強すべきであるということで、副読本がいろいろ出されておりますけれども、そういった活用するようなものが少ないのではないかという御意見がございました。

英語教育につきましては、これは事務事業の評価の実績の部分で、ALTの訪問日数が減っているという状況がございましたので、それを見られての御意見でございますけれども、ALTの配置の必要性についての御提案でございます。

次ページにまいりまして、(3)計画の目標や方向性に関するものといたしましてでございますが、次期計画に向けて、各委員が思いを述べられております。

まず、①といたしましては、SNSの弊害ということで、特に弊害と

いう言葉について、今からはインターネットが必要となりますので、これをいかに使っていくかということで、弊害という表現についての御意見でございます。

それから、②番といたしましては、日本の教育が教えることが主になっているということで、それを対話的といいますか、双方向のコミュニケーションをとることが重要であるという御意見でございます。

③、④につきましては、言葉の表現の意味といいますか、育てるという表現がいかがかということの御意見、育つとしてはどうだろうかという御意見、④については、逆に育てるのほうがいいのではないか、大人が育てるといふほうが理にかなっているという、ちょっと相反する御意見もございました。

⑤につきましては、それに加えて、やはり地域で育てるということを強調すべきであろうという御意見でございます。

それから、⑥につきましては、安心安全な教育環境を整えるという文言の中で、快適なという言葉を入れてほしいと。これは、エアコン設置のことを念頭に入れておられる御発言でございまして、県内は、エアコンの設置率が特に低いということで、快適なという表現を入れてほしいというものでございます。

⑦につきましては、今の学校教育の中で、どちらかということと全てが用意されていると。例に挙げられたのが、家庭科のエプロンづくりで、子どもたちにやらせるのに既にでき上がったセットを渡して、それをやるような形になっているので、それがどうかと、そのやり方について、ちょっと疑問に思うという御意見でございます。

⑧については、自己肯定感をしっかりとつけるような形で、計画の中に位置づける必要があるというものでございます。

⑨につきましては、モンテッソーリ教育ということを出されまして、いわゆるそういった特別なやり方、好きな時に好きなことをやるような教育といいますか、そういったものがあるということで、これはそれをやるというのではなくて、そういったいわゆる市の独自性を強調すべきではないか、計画の中で位置づけていくべきではないかという御意見でございます。

そして、⑩につきましては、子育てではなく親育てという視点からも計画の中でこういった位置づけをしていくかという御意見でございます。

⑪につきましては、郷土愛というものを進めていかななくてはいけない。郷土読本などを使って、地域をよく知って、それは将来的に山口市に子どもたちが帰ってきたり、山口市に誇りを持ったりということが非常に大切だという御意見でございます。

そして、⑫につきましては、子どもは地域で育つということで、そう

いう意味において地域は非常に重要であるけれども、最近、その地域の力がちょっと弱くなってきていると、不十分になっているということを課題に挙げておられます。

そして、(4)計画の評価や指標に関するものについての御意見をまとめております。

①につきましては、文字がいくらあっても生活の中で機能しないので、きちんと客観性を持った指標を示していくべきだろうというものでございます。

そして、次のページでございますけれども、②につきましては、学校評価のいわゆるアンケートがございますけれども、親御さんがどちらかというとすぐ3をつけたがってしまって、なかなか絶対的な数値が出てきにくい、そのアンケートの仕方についての御意見でございます。

そして、③につきましては、これも現計画の指標でございますけれども、教育を受けられない方がどれだけいるか。これは、例え話でございますけれども、具体的なデータを出して、今後、計画の策定の中で議論していきたいということで、根拠を明確に示してほしいという御要望でございます。

そして、④につきましては、数値化ばかりで、教育というのは数値化が難しい部分もございますから、その中で、現場の声をよく聞いていただいて、そういったものを資料の中に出していただければ議論がしやすくなるのではないかという御意見でございます。

次、(5)用語に関するものとしてまとめておりますのが、これは細かいことでございますけれども、次代というのが次世代であるべきだろうという御意見、グローバル人材という言葉自体がどうなのかと、グローバルに活躍できる人材という形で、和製英語としては的確に書く方がふさわしいだろうという御意見、それと、少子化については超少子高齢化というような強調をすべきだろうという御意見、そして、4番目といたしましては、計画の中で、これは特に市の総合計画の部分における御意見でございますけれども、例えばシビックプライドという言葉であったり、シティセールスという言葉であったり、アクティブシニアという言葉であったり、片仮名が多い、市民の方にわかりにくいのではないかというような御指摘でございます。

(6)その他につきましては、学校の先生の職場体験はどうかという御意見や学校の先生の資質の問題でございますけれども、そういった部分での御意見、御指摘がございました。

以上のような形で、御報告をさせていただきましたけれども、これらいただきました御意見につきましては、整理をした上で次回の会議に報告をいたすとともに、この意見をもとに具体的に御検討いただく資料を次回までに作成して、また御提示させていただくことといたしております。

	<p>そして、資料の最後、6番目、今後のスケジュールでございますけども、参考といたしまして御説明させていただきます。</p> <p>第2回の策定委員会につきましては8月の下旬、第3回につきましては9月の下旬を予定しております。2回、3回の委員会につきましては、主に具体的な内容について踏み込んで御検討いただくこととしております。</p> <p>11月に第4回の委員会を開催する予定でございます、この段階で素案という形でお示しをしていきたいと思っております。</p> <p>その後、パブリックコメント、関係団体等へのヒアリング等を行いまして、第5回の委員会を1月に開催いたしまして、こちらでほぼ計画案を固めていきたい。そして、2月、3月で計画を決定、または作成・公表という段取りで考えております。</p> <p>説明については以上でございます。</p>
宮原委員長	報告第1号について、御意見、御質問はございませんか。
佐藤委員	<p>2点ありますが、まず1枚目の5(1)②就業構造も大きく変わり、母親がほとんど働いており、ひとりっ子もふえているというところの次の子どもたちに結婚や命の大切さを教えることも教育ではないかという文言ですが、これだと、今よく言われるように就業構造も変わりまではないですが、母親がほとんど働いているから命の大切さとか結婚となると、やはり子育ては女性がするものだとか、押しつけというか、そのあたりが結構言われていたりするので、文言は気をつけたほうがいいかなとも思っていて、むしろ未婚率が高まっているから結婚とかという話なのかなと。</p> <p>この言葉がどこにかかるかで命の大切さはいいいのですが、結婚や命の大切さというと、結婚することがいいという価値観の押しつけだというようなことを言われかねないと思うので、このあたりの表現に気をつけたほうがいいと思いました。</p> <p>3ページ目ですけど、(5)の③少子高齢化についても超をつけて強調してほしいというのが、この分野ではどうかかわからないのですが、社会福祉分野では、超をつけるかどうかというのは明確な規定がありまして、例えば、高齢者の割合が7%を超えると高齢化社会、14%を超えると高齢社会、21%を超えると超高齢社会という決まりがありまして、超高齢化社会という言葉はあり得ないです。</p> <p>このあたりもきちんと定義と照らしておかないとおかしいことになってしまうと思いました。</p> <p>以上です。</p>
原田教育総務課長	ありがとうございました。
宮原委員長	ほかにはございませんか。

	<p>佐々木委員 意見の内容として書いていただいたことというのは、第1回の委員会で出てきた意見を載せてくださっているとは思いますが、これで、およそものは出尽くしていますか。全てを書き込んでいるような感じですか。それとも、何かピックアップして幾つかを書き込みたいかなことですか。</p>
	<p>原田教育総務課長 結構な時間、御意見をいただきましたが、ほぼ言われている内容を記載している状況でございます。</p>
	<p>佐々木委員 これらの意見を出していただいたことと、それらを計画に盛り込むとか、盛り込まないとかいうようなこともおありかとは思いますが、そこは先ほどの佐藤委員さんからの御意見などもありますし、適切な形で対応していただきたいなと思っておりますが、場合によっては意見としてここに出てきたけども反映させないほうがいいものもあるかとも思いますし、そこらも委員さんのほうが出した意見は必ず反映されるみたいな、そういう認識もお持ちでは当然ないとは思いますが、そこらが、気になったものですから。</p>
	<p>原田教育総務課長 今回の御指摘のとおり、頂戴した御意見は一応載せておりますけれども、これら全てが計画に反映する、反映しないというのは、今から案をつくっていく中で、出た意見としてはこういった意見がございましたということで、皆様にまた再度お示しはいたしますけれども、それを反映する、反映しないものといった形で、整理しながら計画の案を、最終的には素案という形で、最終的にはなりますけれども、全てがこのとおりになるわけではないという感じでございます。</p>
	<p>中谷教育部長 今回の資料の出し方としてなかなかわかりにくいとは思いますが、この策定委員さんにお示しした資料を、皆様にはお見せしないままに、御意見だけをお見せをしているので、この背景がわかりにくいとは思いますが。実は、今回は新しい計画に向けた案というのは全く出していない状態で、こういう方針でつくりたいですよということと、現行事業の進捗状況だけの説明をする中で、委員さん方も普段思っていることを自由に発言されたというような空気感がございました。</p> <p>先ほどの結婚や命を大切にするというお話しは、策定委員さんも非常に問題意識を持っていらっしゃる中で、少子化が進む中で、結婚というのが、そのよさみたいなものを伝えられない世の中になったこと自体がどうなのかと。</p> <p>教育の信念として、そこについてどうアプローチしていくのかということが、今問われているというような認識の中で、そういうことも教育で教えていくのも重要ではないかといったことを言われたりもしていますので、今回はまさにおっしゃるとおり、計画に、生に盛り込むには難しいような表現も含めてですが、雰囲気としては非常に活発に、日ごろ問題意識を持っておられることを自由に語られたという状況でございます。</p>

	<p>した。</p> <p>以上でございます。</p>
宮原委員長	<p>何かほかに御質問はありませんか。</p> <p>私から質問ですけれども、先ほどの資料の3ページの③のところ、山口市の教育を受けられない方というのは、どういう意味ですか。</p>
原田教育総務課長	<p>現在の計画の事務事業で、成果指標の目標が、100パーセント受けられるというのがございまして、今100パーセントになっているので、受けられるのが当然だろうという指標があるのですが、それを例にとられて言われただけであって、そういったように具体的な指標を計画策定の段階で示していただければ、足りない部分とか、足りている部分が議論の対象になりやすいということでもございました。計画の中には、受けられない人数というのは出てまいりませんが、事務事業評価の中にそういう指標がございますので、それを例えの中で、御意見いただいたというものでございます。</p>
宮原委員長	<p>事務事業の指標というのは、教育委員会で作るのでしょうか。それとも、つくらないのでしょうか。</p>
原田教育総務課長	<p>はい。つくります。</p>
宮原委員長	<p>指標まで作るのですね。</p>
原田教育総務課長	<p>総合計画の中でつくってまいりますけれども、今の計画でいえば、総合計画の指標を、教育振興基本計画における評価としておきかえているところでございます。</p>
宮原委員長	<p>教育委員会内では変えられないものと、教育委員会で決められるものがあり、どれがどの辺までなのかがよくわからないのですが。</p>
中谷教育部長	<p>総合計画の中の指標の最終的な決定権は、これは行政計画ですので市長にあります。</p> <p>指標の作成作業は、当然、教育委員会の事務局がかかわって、最終的な取りまとめは企画経営課というところが総合計画の作成の所管部署でございますので、そこが最終的な案を取りまとめて決裁を取って確定するというところでございます。</p> <p>この御質問も具体的な内容は、就学援助の目標でございます。子どもたちが教育を受けられるように就学援助という事業をやって、その成果指標が、教育を受けられない子どもがいるかどうかという目標を設定しているのですが、この指標の設定はどうなのかというのが、委員さんの本音の意見であると思いますが、これまでもいろいろと話題になってきている部分でございます。</p>
原田教育総務課長	<p>現在、総合計画の見直しをしているので、指標の見直しも教育委員会で行っている状況です。</p>

	<p>宮原委員長 わかりました。</p> <p>前回おっしゃったと思いますけれども、教育や文化については、数値化できるかどうかというのがずっと議論されていますということでしたが、それは教育委員会の中でも、そして、市企画経営課と指標をめぐって調整をされると思いますけど、そこでも問題になっているのでしょうか。</p>
<p>中谷教育部 長</p>	<p>総合政策部や行革推進課と事務事業評価についてヒアリングをする中で、議論を行ってまいったところでございます。</p> <p>論点は2つで、1つが指標化の難しさをどう考えるかということと、もう1つが全ての市民に対する説明責任を果たす中で、全く知見がない分野でも、市民の皆さんがわかりやすい指標の設定というものをどう考えるかということでございます。</p> <p>基本的には数値化を進める方向でございまして、よりよい指標を考えましようという流れになっておりまして、指標については、いろいろと案をめぐらせておりまして、数値化そのものをやめるべきではないかというふうには向かっておりません。ただ、いつも悩んでいる状況でございます。</p>
<p>宮原委員長</p>	<p>そうですね。なかなか文章とかで補えない。でも、そこが大事というところの話なので、その辺をどうやって漏れないようにするか、わかっていただくか。逆に数値化したことでわかりやすいけども、やっているのはこれだけというふうに市民の方に伝わってしまうという恐れもあるなと思いますので、確かに難しいところですけども、指標については、引き続き考えていきたいと思います。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>2ページ目の(3)の⑨ですけど、私もそんなに詳しくはないですけど、モンテッソーリとは、自分の好きなことを好きなときに好きな時間するということが一番大事かというのは、モンテッソーリ教育をしているところが本当にそうなのかなというか、1つの理論であって、そのところに詳しくもない、簡単に書いてしまってもいいものか、それが難しく、それよりも言いたいところは、ぎゅうぎゅうのカリキュラムはよくないとか、先ほど言われた市の独自性ということなので、ここに具体的な何とか教育みたいなことを書かないほうがいいかと。実際、山口市内の園でされているところは、私立の1つの系列のところだけだと思うんですけど、1つの園のことだけ、その私立の園しかやっていないようなことをこういうところに書くのもどうかと。趣旨だけを書いたほうが、個別名は挙げないほうがいいと思いました。</p>
<p>原田教育総 務課長</p>	<p>御意見として出たので記載をしておりますけども、これもモンテッソーリ教育を山口市ですべきであるという御意見ではなくて、先程言われたように、例えばそういった独自性のある山口市の幼児教育について、こういう形で進めると。定数が減っている中で、そういった意味での独</p>

	<p>自性をもっと強調すべきではないか、独自性というか、山口市の幼児教育のあり方をもっと強調すべきではないかという御意見でございます。</p>
宮原委員長	<p>ほかにございませんか。</p> <p>(なし)</p> <p>それでは、続きまして、報告第2号の社会教育委員会議の協議内容について、事務局から説明をお願いします。井上社会教育課長。</p>
井上社会教育課長	<p>それでは、社会教育課から報告第2号社会教育委員会議の協議内容について御報告いたします。</p> <p>議案①の4ページを御覧ください。</p> <p>去る6月14日に会議を開催いたし、委員15名のうち12名が出席されたところでございます。</p> <p>会議の内容についてでございますが、平成29年1月11日に山口市長から地域の学びを支援するために必要な人材の要件及び育成のあり方についての調査研究依頼がございまして、この報告書素案について御審議いただいたところでございます。</p> <p>報告書の柱立てにつきましては、4ページ中ほどに記してあります1から8まででございますが、この調査研究の方向性といたしましては、これまで社会教育委員会議が示してきた答申や提言を踏まえまして、地域交流センターの教育機能の高次化を図るために、地域の考え方を明確にし、生涯学習基本計画の施策の方向性が躍動的で広範性のあるものとなるよう配慮した提言を、社会教育の見地から行うことといたしたところでございます。</p> <p>また、この日、委員の皆様から出された主な御意見といたしましては、今後の本市のまちづくりを進めるにあたり、人材を育成する生涯学習・社会教育施設として、地域交流センターと職員が核となってくる。その上で求められるレベルも高くなっていくので、具体的な職員の研修方法、職員のモチベーションを高める人事ローテーションも明記したほうがいいのではないかとといった御意見や、そのほか、今年度市長部局が策定中の生涯学習基本計画にどこまで盛り込めるかについて事務局で確認し、調査することとなったところでございます。</p> <p>今後といたしましては、今週末の28日に社会教育委員のうち5名で構成いたします検討委員会を予定しておりまして、調査研究報告書の最終調整を行ったのちに、8月には教育長に手交する予定といたしております。手交の日程は、現在調整中でございます。</p> <p>以上で報告第2号の御説明を終わります。</p>
宮原委員長	<p>それでは、報告第2号について、御意見、御質問はございませんか。</p>
山本委員	<p>質問を1ついいですか。委員から出された主な意見の中で、このまま、</p>

	<p>そっくりそのまま言葉がいろんなものに反映されるということは全く思っておりませんが、研修方法や職員のモチベーションを高める人事ローテーションとありますが、市では人事ローテーションという言葉をよく使うのでしょうか。</p>
井上社会教育課長	<p>ローテーションといいますか、市の市長部局の総務部に当たると思いますが、人事異動が何年に1回ありますか、大まかな人材育成の方向性でございます。</p>
山本委員	<p>要は、人事異動のあり方も明記したほうがよいのではということですね。</p>
井上社会教育課長	<p>ありがとうございます。</p>
中谷教育部長	<p>正式な用語としては使わないです。</p>
山本委員	<p>使わないのですね。</p>
井上社会教育課長	<p>はい。</p>
宮原委員長	<p>それでは、ほかにごまませんか。</p> <p>(なし)</p> <p>それでは、協議事項に移ります。</p> <p>協議第1号の平成28年度教育委員会の事務の点検・評価について、事務局から説明をお願いします。</p>
磯部教育部次長	<p>それでは、平成28年度教育委員会の事務の点検・評価について説明をさせていただきます。</p> <p>初めに、資料の①議案でございますが、5ページを御覧ください。</p> <p>提案理由にありますように、教育委員会の事務の点検・評価につきまして、先月6月の定例会に引き続き協議をお願いするものでございます。</p> <p>それから、次に資料の②でございます。</p> <p>資料の②平成28年度教育委員会の事務の点検・評価について、こちらの資料は6月の定例会でお示したものでございますけれども、そのときから何点か訂正箇所がございましたので、先にその訂正箇所につきまして、各課長より御説明をさせていただきます。</p>
伊藤教育施設管理課長	<p>それでは、私からは教育施設管理課分の訂正について申し上げます。</p> <p>前回から、金額を修正した事業が2つございます。</p> <p>まず23ページを御覧ください。</p> <p>小学校施設長寿命化事業でございます。この中ほどの事業費ですけれども、28年度実績でございますが、事業費自体の2億7,558万8,</p>

	<p>000円は変わっておりません。そのうちの財源内訳のうち地方債と一般財源について、前回の地方債より20万円ほどふえて5,610万円になっております。逆に一般財源のほうについては20万円減っております。</p> <p>これは、市全体の財源の調整のために増額したものでございます。めくりまして、24ページを御覧ください。</p> <p>小学校施設安心安全推進事業でございます。こちら、中ほどの事業費のうち28年度実績、こちらの事業費9,784万8,000円は変わっておりませんが、国支出金と一般財源の金額が変わっております。こちらは、国支出金が前回御報告したよりも9,000円減らせて891万2,000円、逆に一般財源が9,000円ふえて3,063万6,000円になっております。</p> <p>こちらは9,000円ほど27年度に国のほうから受け入れがあったということで、27年度決算の中に既に計上しておったもので、二重計上しておったものでございます。訂正いたします。</p> <p>以上で教育施設管理課分を終わります。</p>
宮原委員長	江山課長。
江山学校教育課長	<p>続いて学校教育課分の訂正箇所について、2カ所ございますのでお知らせいたします。</p> <p>13ページをお願いします。</p> <p>情報教育環境整備事業の真ん中の活動状況、成果状況、事業費の推移の中の表でございますが、その中の付記事項の中に、小学校費6,658万4,958円、それから、中学校費1億3,645万202円とございますが、前回の数字が、小学校費と中学校費が逆のものが入っておりますので、こちらのほうに訂正をさせていただいております。</p> <p>続いて、1枚めくりまして15ページでございます。</p> <p>15ページの学校図書館図書標準の達成状況について、前回の数字が平成27年は110.7、平成28年も110.7としておりましたが、今回、平成28年を112.3に修正しております。</p> <p>これは、3月末までのものを決算時期に集計いたしますが、今回その集計時期が遅くなってしまい、前年の数字がそのまま載ってしまったものでございます。精査した結果、この数字になりましたので、正しい数字に改めさせていただいたものでございます。</p> <p>学校教育課からは、以上でございます。</p>
宮原委員長	山田中央図書館長。
山田中央図書館長	<p>中央図書館でございます。</p> <p>73ページでございます。</p> <p>学校図書館支援サービス事業の中で、真ん中に上げております成果指標の②学校図書館の児童生徒一人あたりの貸出冊数でございますが、こ</p>

れにつきましては、学校教育課所管の学校図書館整備事業の成果指標と同じ数字にするということで調整をいたしましたので、本日の資料では、39となっておりますが、32ということで、修正させていただくものでございます。よろしくお願いいたします。

中央図書館は以上でございます。

礒部 教育部 次長 続きまして、資料の③でございます。平成28年度教育委員会の事務の点検・評価に係る学識経験者意見でございます。

これにつきましては、3名の方の御意見を施策及び基本事業ごとにまとめさせていただいております。私から、この資料③について説明をさせていただきます。そののちに委員の皆様方から御意見、御質問等を頂戴いたしまして、資料の②の中で訂正すべき点などがございましたら修正等を加えた上で最終的な報告書の案とさせていただければと思っております。

それでは、資料の③について御説明を申し上げます。

まず、表紙をめくっていただきまして、左側に教育委員会の事務の点検・評価に係る学識経験者の意見一覧表を載せております。各施策と基本事業の中で御意見いただいたものについては、それぞれの方のところに丸印をつけております。

なお、学識経験者の皆様には、施策と基本事業において、評価や評価方法が公正公平の観点から適切かどうかの御意見をお願いしたものでございます。

この意見の中には、評価に対するもののほか、成果をさらに高めるための提案、それから、現状に対する課題などについても意見がございましたので、その部分も合わせて掲載をしております。

それでは1ページを御覧ください。どなたからも意見がなかった施策や基本事業については空欄としております。

まず初めに、施策の2、02と書いてありますが2-2、楽しく学び、生きる力をはぐくむ子どもについてでございます。

これに該当する評価については、資料の②の8ページになります。

はじめに、山口大学教育学部学部長の丹氏からの御意見は、指標の①、②の学校生活を楽しんでいる児童生徒の割合について、共に高い数値を示しておりますが、この割合に漏れている中には、不登校やいじめなどの課題を抱えた児童生徒がいるものと思われることから、引き続き支援や対応の充実を求めておられます。

それから、山口県教育会事務局長の吉岡氏は、指標の①の実績値が10年前の基準地とあまり変化がない理由として、小学校と中学校の発達段階の違いではないかと述べられるとともに、指標の②については、10年前から数値が10ポイント向上している点を評価いただいております。

続きまして、基本事業の01、確かな学力の定着のところでございます。資料の②は9ページでございます。

丹氏からは、指標①、②の教員一人に対する児童数、生徒数について講師によって差があることから、補助教員の配置によって、小学校だけでなく中学校も目標達成するよう検討が必要との御意見がございました。

また、吉岡氏からは、教員一人に対する児童生徒数を指標として設定する姿勢を堅持していただきたいという御意見がございました。

続きまして、基本事業の02、現代的課題に対応した教育の充実でございます。資料の②は11ページでございます。

丹氏からは、指標①地域の力を授業で活用している学校の割合、これが100%を達成しておりまして、地域の力を授業で活用する手段として、コミュニティスクールやコーディネーター配置の取り組みが重要であるとの意見をいただいております。

続いて、基本事業の03、豊かな心と健やかな体の育成でございます。資料の②は15ページでございます。

丹氏からは、指標の②職に関する指導を実施した学校の割合が100%であることについて評価をいただいております。

それから、山口市社会教育委員会議長の原田氏からは、指標の①学校図書館図書標準の達成状況については、引き続き数値の達成とともに、最新の図書構成の保持について要望されておられます。また、指標の②につきましては、給食の重要性について述べておられます。

続きまして、2ページの基本事業04、教育環境の整備でございます。資料の②は21ページでございます。

吉岡氏からは、指標の②小・中学校における教室充足率の取り組みについて評価をいただいております。

また、原田氏からは、指標の①小・中学校の耐震化率100%達成について評価をいただくとともに、指標の③、④のコンピューターの配備については、機器の配備とともに、リテラシー教育、それから、心身の健やかな成長に欠かせない生活リズムを損なわないように、メディアとどのようにつき合うか、そのつき合い方などの指導というものもすべきであるというような要望がございました。

続きまして、基本事業05、教職員の資質の向上でございます。資料の②は30ページでございます。

丹氏からは、指標①、②ともに目標を達成し、十分な成果が認められているとの意見とともに、指標の②につきましては、児童生徒による授業評価をどのように授業改善に生かしているかについて検討する必要があるという意見がございました。

続いて、基本事業07、幼児教育の充実でございます。資料の②は3

4ページでございます。

吉岡氏から、指標の①について、目標値と同様に高い数値となっており、地域における保護者同士のかかわりが薄れている中、就学前に集団生活や発達に応じた生活習慣が定着するように、引き続き高い数値を目指してほしいという意見をいただいております。

続いて、施策03、家庭、地域、学校の連携で、すくすくと育つ子どもでございます。資料の②は40ページでございます。

吉岡氏は、指標①地域での子育て活動を実践している市民の割合の値については、広域合併で、地域によって子育て活動を実践する子どもがいない、あるいは学校がないといった状況が異なっており、評価の分析が非常に難しく、この評価欄にありますように、具体的な支援策や諸施策の展開に取り組んでいくことを実行するしかないというような意見をいただいております。

続いて3ページ、基本事業01、家庭教育の充実でございます。資料の②は41ページでございます。

原田氏からは、指標の①家庭教育の向上のために、学習、話し合い、工夫をしている保護者の割合について、一時期よりも割合がダウンしていること、これは多いときは70%あったものが28年度は64.8%に減っているということで、その理由についての考究が必要であるというような意見をいただいております。それから、指標②の家庭教育に関する講座への参加者数につきましては、問題を抱える家庭へのアプローチとして、従来の講座型での情報提供以外の方法が必要ではないかというような意見をいただいております。

続きまして、基本事業02、地域と学校の連携でございます。資料の②は43ページでございます。

原田氏からは、指標①さまざまな学習を支援するボランティア活動の述べ件数が増加していることについて評価をされておりますが、学校側の団体への配慮、これは当然やってもらえるというような雰囲気や団体に依頼をするというようなことのようにありますが、そういった学校側の団体への配慮、あるいは地域協育ネットワーク、協育ネットのコーディネーターの確保のための後継者の育成といった取り組みの必要性について意見がございました。

続きまして、施策の04、文化、芸術、歴史に触れ、心豊かに生きるひとでございます。資料の②は50ページでございます。

なお、こちらの施策を主管する部署は、教育委員会ではなくてふるさと創生部となります。

初めに、吉岡氏からは指標の②山口市の歴史や文化に誇りや愛着を持っている市民の割合について、10歳代から30歳代の若い世代の値が低く、若者を山口市の歴史や文化に誇りや愛着を持つ市民に育てなけれ

	<p>ばいけない。例えば、エネルギーあふれる大学生を対象に、卒業後、どこに行っても山口市の応援団になってもらえるよう大学生に絞り込んだ事業展開をしてはどうかというような意見がございました。</p> <p>10歳代から30歳代の若い世代の値が低いというのが、61%ぐらいということで、年代的には若い世代の割合が低いというような状況でございます。</p> <p>続きまして、基本事業03、郷土の歴史や文化の保護・継承でございます。資料の②は51ページでございます。</p> <p>吉岡氏からは、指標の③郷土の文化・文化財を知っている市民の割合について、10歳代から30歳代が依然として低い水準であることから、10代、20代の市民を対象とした事業を開始する必要があるというふうに述べておられます。</p> <p>10代、20代の市民を対象にというのは、10代、20代のとき、生まれ育った場所ということがありますので、そういった若いときに生まれ育った地域での文化や文化財を学んだらどうかというようなことで提案がございました。</p> <p>それから、最後に施策の05、生涯を通して学び、よりよく生きる人でございます。資料の②は64ページでございます。</p> <p>こちらの主管部局は、地域生活部でございます。</p> <p>吉岡氏からは、指標の②生涯学習の成果を家庭・地域に生かしている市民の割合は約10年間経過しておりますけれども、数値上の成果が表れていない。特技や知識を地域に役立てたいと考えている人は多いと思われるので、数値向上のため、多様な主体と連携を行政機関が強力に推進すべきであるというような意見をいただいております。</p> <p>以上、簡単でございますが、学識経験を有する方々からいただきました意見について説明を終わらせていただきます。御審議のほどよろしくお願いたします。</p>
宮原委員長	それでは、何か御意見や御質問はございませんか。
竹内委員	1つ質問です。45ページの中ほどに活動状況、成果状況、事業費の推移というのがありますが、その地域協育ネット推進事業実施地域数というのがあります。中学校区で考えたら17校ぐらいだろうと思うのですが、21になっているのはどういうことですか。
井上社会教育課長	社会教育課の井上でございます。 21地域という縛りで、地域の特性を生かして、地域という捉えで全体を広めてまいりたいと考えております。
竹内委員	必ずしも中学校区ではないということですね。
井上社会教育課長	はい。そうです。
宮原委員長	中学校区ではないところは、例えばどこがありますか。

井上社会教育課長	例えば、山口市南部の潟上であれば、陶、鋳銭司、名田島地域がござ います。
宮原委員長	ほかには何か御質問はございませんか。
佐藤委員	本筋とは全然違うのですが、資料の見やすさという点で15ページで すが、指標①のグラフですが、縦軸の目盛りが、多分自動作成すればこ うなるのかもしれませんが、10.5刻みだと思いましたが、等間隔でやる としたら、数字表記は70、80、91で、本当は70、80.5、91 というふうになっていくのだと思うのですが、自動につくったらこうな るのかもしれませんが、10刻みでも構わないと思います。
礒部教育部 次長	そうですね。
佐藤委員	そうですね。だとしたら、この表記のところ、パーセンテージのと ころを0.5まで書かないと、同じ間隔なのに違うのはおかしいと思いま す。ほかのところは、多分、全部等間隔になっていると思います。
礒部教育部 次長	この辺はシステムに係る部分でございますので、システムを管理 する部署にお伝えしてみたいと思います。
佐藤委員	無理だったらいいのですが、見やすさと資料の説明ということからす ると、おかしいと思いました。
礒部教育部 次長	そうですね。わかりました。
宮原委員長	ほかには御質問ございませんか。
佐々木委員	③1ページの基本事業01の確かな学力の定着の吉岡氏のところです けど、この文章が載るとして、その前提であればなおさらですけど、指 標②は教員一人に対する児童・生徒数で、中学生については目標値を達 成していませんということで、中学生であるということが1点と、吉岡 氏は、これは一般財源から何々の支出みたいなことが書いてありますが、 それは小・中合わせての話ですよ。それから、一般財源以外にも県支 出金もあるので。なおかつ、補助教員を雇用したことがこのことに貢献 していることはわかりますけど、それだけが貢献した原因だともいえな いので、そういうところが気になりますけども。 もう一度言いましょうか。
礒部教育部 次長	済みません。お願いします。
佐々木委員	吉岡さんが御指摘くださっていることは、③1ページの下のほうです けど、基本事業01、確かな学力の定着ですが、指標②教員一人に対す る児童・生徒数で、これは小学生のほうは達成しているので、指摘され ているのは中学生ですので、細かく言うと、厳密に言うと「中学生につ いては目標値を達成していませんが」がいるのではないかというのが1

	<p>つ目と、それでも生徒に12人に1人の割合で教員が配置されていますということで、これは一般財源からこういった額のお金を支出して、130人の補助教員を支出したことによるものとありますけど、ここで出されている金額とか、130人というのは、中学校に限定した数字ではないので、これを大きな理由として書いてあるように読み取れますけど、それはおかしいのではないかと思いますけども。</p> <p>そのあとの、教員一人に対する児童・生徒数を指標として設定する基本姿勢を堅持していただきたいというのも、細かく言うと、ちょっと脈絡がないという感じはしないでもないですが、それはそれとして御意見ですから、特に数字の問題でこれが出たときに合わないなという。</p> <p>中学生限定の話だということがわかるようにしたほうがいいのではないかと思います。</p>
<p>礒部教育部 次長</p>	<p>御意見いただきましたとおり、今の事業については、小学校・中学校を合わせた金額で書いてありますので、中学校だけというような意見のほうは、そういうふうな感じに取れますけれども、その辺を間違いがないような形で整理していきたいと思えます。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>続けてもいいですか。</p> <p>資料③2ページの上、吉岡氏のところですけど、教育環境の整備のところ、指標②小・中学校における教室充足率について、評価欄に「必要な特別支援教室の数は年々増加の傾向にあり、一部の学校では特別教室の不足が恒常化しています」と記載があるとありますけど、②の21ページを見ると、そうはなっていないので、一部分、途中を省略している形での鍵括弧の引用みたいな形になっています。</p> <p>必要な特別支援教室の数は年々増加の傾向にあります。学校生活の基礎となる普通教室（特別支援教室含む）は優先して確保するため、一部の学校では特別教室の不足が恒常化していますというのが、21ページの記述ですけど、③の2ページはこれを省略する形で書いてありますけども、鍵括弧でそのまま引用しているかのように書いてあって、そういうようなところで。</p> <p>これは吉岡さんが書かれたのですか。それとも。</p>
<p>礒部教育部 次長</p>	<p>長い文章のところをこちらのほうで簡略化した部分がございますので、言葉が漏れている可能性がございます。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>そういうこともおありだとは思いますが、鍵括弧の引用というか、そのままかなというイメージを受けるので。</p>
<p>礒部教育部 次長</p>	<p>わかりました。申しわけございません。訂正をさせていただければと思います。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>そのすぐ下ですけど、原田氏のところですが、耐震化率の、山口県全体では全国40位と書いてありますけど、これは40位であっていますか。私が調べたら41位ではないかと。44位から41位に上がって</p>

	<p>て、別途40というのが示してあって、それを原田さんが見られて40だったらいいですけど、私が出てきた資料によると、平成28年4月1日現在だと41位、前年度は44位となっはいるんですけど。</p>
礒部教育部 次長	<p>原田さんの原文も全国40位と記載がされております。こちらからそういう数値を資料としてお渡しはしていませんので、何かの情報をもとに書かれたものではないかなと思います。</p>
中谷教育部 長	<p>引用するときには、確認をして対応したいと思います。</p>
佐々木委員	<p>そうですね。40位ぐらいだというのは合っていると思いますけど、ちょうど40位とか、どこの都市を指されているのかにもよるでしょうけど、それがどうかと。</p> <p>それと、③2ページの下の方に、吉岡氏の2つ目の基本事業07のところですが、幼児教育のところ、就学前というのがあって、就学前教育というのは、就学というのは小学校段階に入るというようなことで、その前を就学前教育といたりもしますが、さき程の基本計画の御意見というのは、その前の3歳までのことという就学前であって、定義というのが違う可能性があるんで、少し気になったというのがあります。さらに、定義関係でいうと、地域の定義の話も出ていましたが、③2ページの下から3ページの上にかけての吉岡氏のところですけども、地域で子育て活動を実際にしようにも、子どもがいないとか、小学校がなくなったという地域がたくさんあるというのは、わからないことはありませんが、そういう意識で地域を捉えなくなっているということの一方で、うちの地域には学校がないとか、子どもがいなくなったみたいな、少なくともなくなったということは感覚的にはわかるんですけど、新たな地域概念でいうと、ちょっと違うよというところもあり得るので、御意見としてはそうかなと思うんですけど、難しいところではあるとは思いますが、地域概念というのは、従来からあやふやなところも含んでいるとは思いますが。</p> <p>それから、あと一つ。③3ページの施策04、真ん中あたりですが、吉岡氏の大学生に絞り込んだ事業を策定されることをというふうに言われたところですが、例えば、「エネルギーあふれる大学生を」といった感じのことですか。</p>
礒部教育部 次長	<p>はい。</p>
佐々木委員	<p>なるほど。</p> <p>お答えになったのは、文章としてお答えになられたのですか。</p>
礒部教育部 次長	<p>そうですね。はい。</p>
佐々木委員	<p>実はその下に、10代20代の市民を対象にというのがあります。同</p>

	<p>じく10歳代から30歳代が低いということが問題となっていますけども、上のほうは大学生の話が出てきて、下のほうは10代20代の話があったものですから、どのような文脈で、わからないことはないのですが、どういうふうな感じで言われたのかなと思ったものです。確認いただけますか。</p>
<p>礒部教育部 次長</p>	<p>元原稿は、「山口大学に行くことがあるのですが、朝、2,000人くらい大学生が登校してくる光景はエネルギーに満ちています。この若者たちを山口市の歴史や文化に誇りや愛着を持っている市民に育てなければなりません。卒業すれば、多くの学生は大都市圏へ転出しますが、学生時代に培った愛着によって、どこに行っても山口市の応援団になってくれます。次の総合計画では、対象を大学生に絞り込んだ事業を策定されることを期待します。」という言い方でございます。</p> <p>その下の10代20代のところについては、「10歳代、20歳代の市民を対象にして郷土の文化・文化財について学ぶ事業を開始する必要があります。山口地域だけでなく、徳地地域にも、阿知須地域にも、全ての地域に固有の文化・文化財があります。10歳代、20歳代のとき、生まれ育った地域の文化・文化財を学ぶことによって、故郷を愛する市民になっていくのだと思います。」ということで、10歳代とか、20歳代は、まだ故郷にいるというケースがあるということで、その間にそういう地域、地元のことを学ぶ機会があったほうがいいのではないかとということで、その辺で事業の提案が違うものになっております。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>わかりました。ありがとうございました。</p> <p>お書きになったものとそこからピックアップするという作業が加わりますので。わかりました。ありがとうございました。</p> <p>もう一つ別の観点ですけど、どなたも触れておられない施策があります。それから、丹氏でしたら最初のほう、施策の2のみとなっています。それから、これはきちんと調べてはないのですが、昨年度に前の学部長がピックアップされたのと似たような事業がピックアップされて書かれているのではないかと、書いてあることも実は記憶に残っている範囲では似ているような印象があります。</p> <p>つまり、学識経験者そのものの評価を我々も評価するみたいなことが、評価という表現はよくありませんが、あるいは、重点的にこの施策をお願いしますというふうに持っていかないと、何か漏れてしまう。せっかく御意見を伺うのに、対象にならない施策とかというような感じが出てくるような気がしないでもありません。</p> <p>それから、そういうような観点で見たときに、これは③3ページの下の方に吉岡氏が指摘してくださっている施策05のところですけど、基準値43.9%からスタートし、約10年が経過しても実績値44.7%と数値上は成果があらわれていませんということで、それは64ペ</p>

ージのグラフを見れば確かにそうですけど、10年間という幅で見るときには、期待している数値である点線グラフに近くなった年もあるわけです。ジグザグになっているといいますか、効果を上げた年と上げていない年があって、我々サイドとしてはそういうことを分析するとか。10年前と10年後の今だけを比較してこうだというのも、もちろん一つはあり得えますけど、成果を上げた年と上げてない年はどこが違うのか、この数年、三、四年上がっていないところをどう分析するのかとか。それと似たようなことでいうと、100%になっていて達成しているのを評価してくださっている記述もあります。ありがたいことだし、いいのですが、何かそれを求めているわけでもないような。つまり、達成できていないところでの、そして我々はこう考えているけど、それでも達成できていないようなところで、お知恵を借りたり、指標そのものがどうなのかみたいなことであったりすると、理解、納得もいくのですが、100%のものを評価してもらっていると、あるいは10年前だけ比較して評価してくださって、我々の仕事でもあるとは思いますが、評価そのものがどうなのかなという感じはしないでもないです。

すみません。長くしゃべりました。ありがとうございました。

宮原委員長

ありがとうございました。

これからまた、来年度からの評価の仕方と指標について、委員さん方に御意見を伺いながら進めていきたいと思えます。

ほかによろしいでしょうか。

(なし)

それでは、ないようでしたら、以上で本日の付議案件については終了いたしました。

次回は、8月1日火曜日、午後1時から臨時会をこちらの第2会議室で予定しています。

なお、定例会につきましては、こちらの第2会議室で、8月28日月曜日、午後2時からを予定しています。あわせてよろしく願いいたします。

以上をもちまして、平成29年第9回教育委員会定例会を閉会いたします。お疲れさまでございました。

署名	<p>上記のとおり相違ありません。 平成29年7月25日</p> <p>委員長 _____</p> <p>署名者 _____</p> <p>署名者 _____</p> <p>会議録調製 _____</p>
----	--